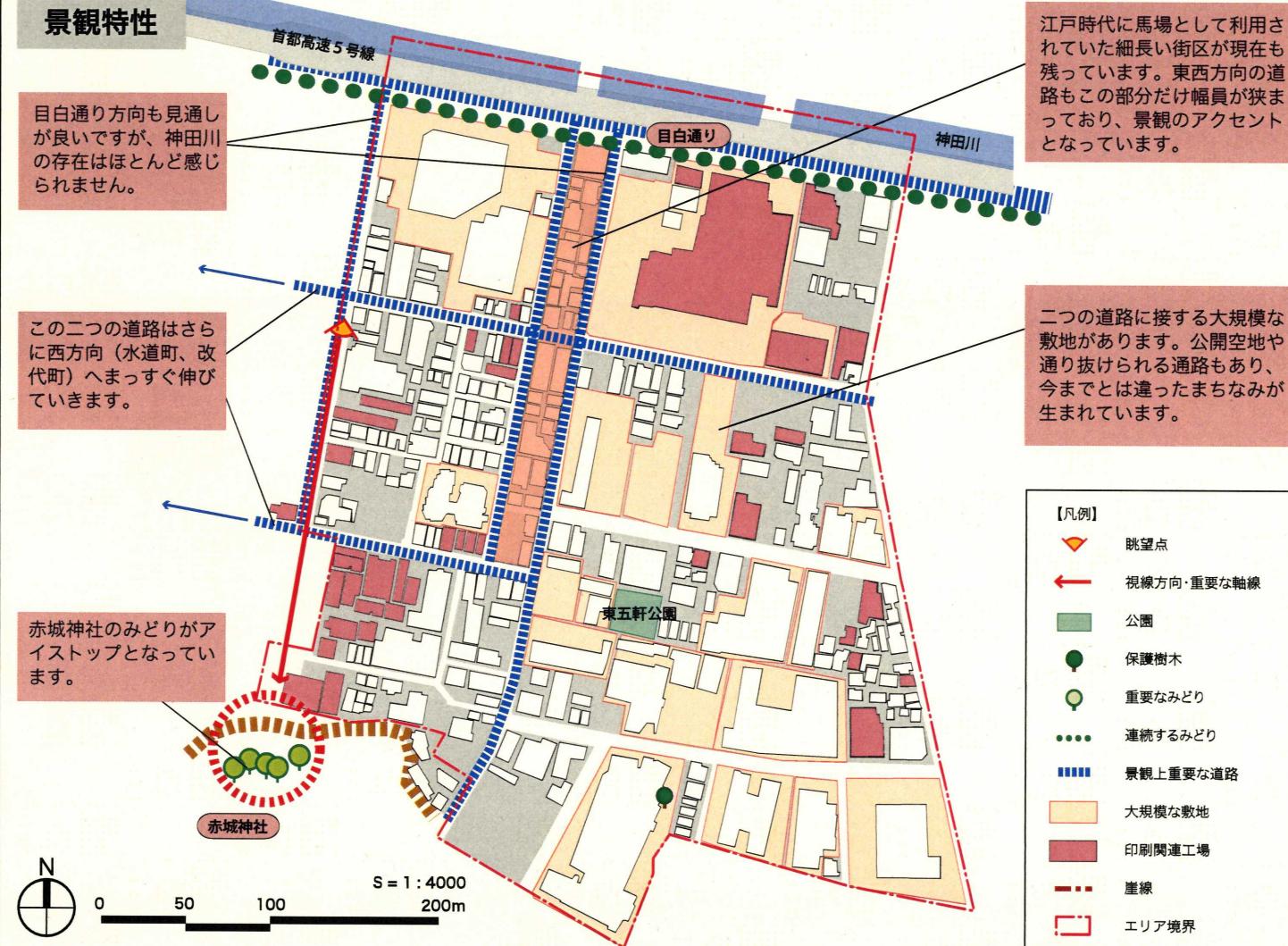


2-1 五軒町エリア

五軒町エリアは神田川沿いの平坦な低地に位置しています。江戸時代からほぼ変わらない、直線道路がつくり出す整然としたまちなみが特徴です。大正時代以降には、大規模印刷工場だけでなく、中小の印刷工場の集積が進みました。また、近年ではマンション等の建設も目立つようになってきました。エリアの東側には大規模敷地が多くあり、江戸時代の馬場の跡地を挟み、西側には比較的中小規模の敷地が多くなっています。



景観特性



1.直線道路の見通し



2.地場産業のある景観



3.大規模敷地とマンション



平坦な地形に、幅員の広い直線道路が通り、非常に見通しが良いです。特に東西方向の道路では、かなり遠い先まで見通すことができます。また、南北方向の道路では、南側の赤城神社や斜面緑地がアイストップとなっています。

印刷製本業を営む大小規模の工場が集積しており、人やフォークリフト等による動きのある景観が特徴となっています。夜間や休日のまちなみの寂しさの改善や、潤いの創出が望まれます。

エリアの東側には大規模敷地が多くあります。空地を大きくとった超高層ビルもあり、従来の景観から大きく変化しつつあります。また、南側の斜面地の周辺では、ゆたかな植栽を持つ中高層のマンションが建ち並び、落ちていた景観となっています。

景観形成の目標

地場産業と住環境とが調和したまちなみへ

印刷製本業が発達したまちに共同住宅が増加してきていることを踏まえ、地場産業と住環境とが調和したまちなみを創出する。

景観形成の方針

1.地場産業と住環境とを調和させる

景観形成の考え方

地場産業のまちなみ特有の夜間や休日の際の寂しさを改善し、住機能との調和を図っていく。

具体的な方策

- 隣地境界線沿いや道路沿いでは積極的に緑化を行う
- 夜間景観に配慮し、道路沿いには照明等を設置する



生業とみどりがともにある

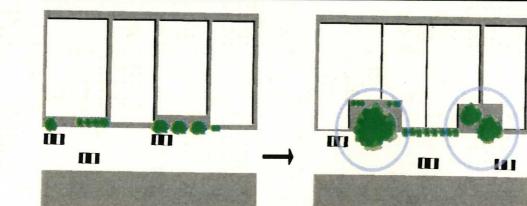
2.みどりを積極的に増やす

景観形成の考え方

寺社・公園などまとまったみどりの代わりに、まちなかに積極的にみどりを増やし潤いのあるまちなみをつくる。

具体的な方策

- 大規模の計画では、まとまった緑化を行う
- 中・小規模の計画では、道路沿いを積極的に緑化を行う



みどりをまとめることで効果を増す

3.見通しの良い道路景観をつくる

景観形成の考え方

平坦な地形や直線道路などでつくられる見通しの良さをいかす。

具体的な方策

- 袖看板などは、見通しを妨げない工夫をする
- 崖地や神社のみどりへの眺めを妨げないよう配慮する



建築物の配置や形態を工夫して見通しを守る

2-2 飯田橋・大曲エリア

飯田橋駅前から神田川が大きく屈曲する大曲付近までの、業務・商業・工業・居住機能の混在したエリアです。飯田橋駅前では、幹線道路の五叉路の上にデッキがかかるており、周囲の建築物には屋外広告物が数多く設置されています。都心のオフィス街にふさわしい、すっきりとした景観が望まれます。また、神田川は目白通りや首都高速によってまちと分断されています。

景観特性

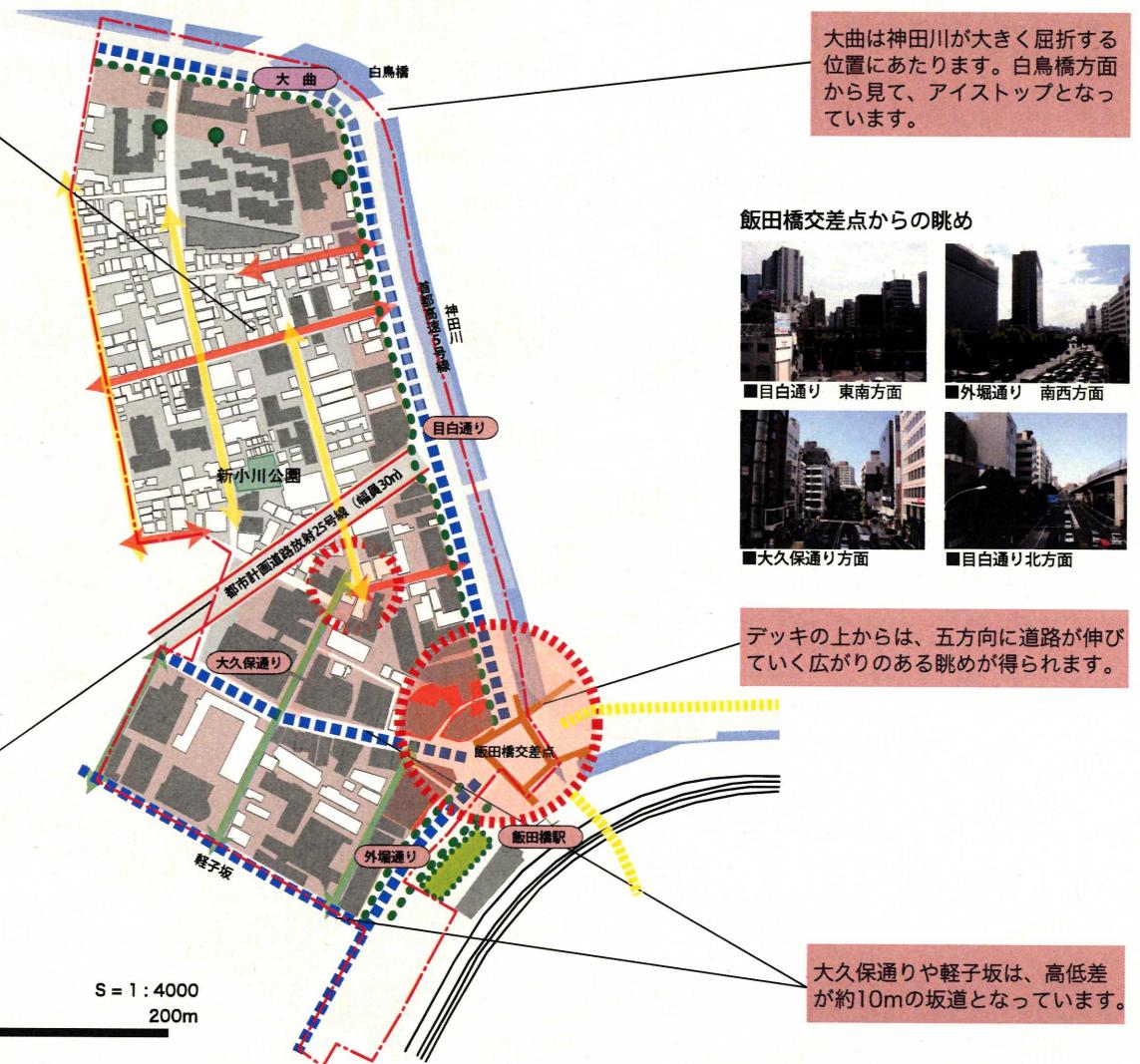
共同住宅や一戸建ての住宅、店舗、小規模オフィスビル、印刷製本工場などが混在しており、特徴に乏しいまちなみとなっています。

【凡例】
公園
保護樹木
連続するみどり
まとまったみどり
景観上重要な道路
幹線道路
都市計画道路
エリア内の道路 (方向別色分け)
多叉路の交差点
6階以上の建築物
高層オフィスビル街区
エリア境界

既存のまちなみと調和した幹線道路の整備と、快適な歩行者空間の創出を図る。



0 50 100 200m

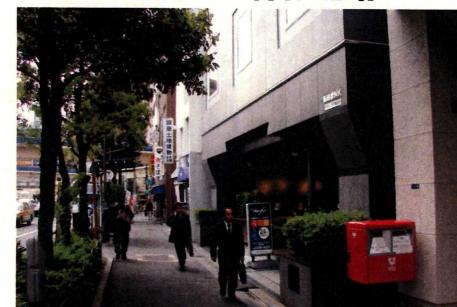


1.駅前の景観



幹線道路が集中する飯田橋駅前は、人通り、車通りの多い五叉路の交差点となっています。交差点の上にかかる歩行者専用のデッキからは、幹線道路を見通すことができ、開放的な眺めを得ることができます。周囲の建築物には、すっきりとした外観や全体としての統一感が望されます。

2.神田川沿いの幹線道路

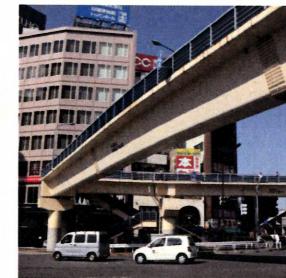


エリアの東側から北側を通る目白通りは、歩道が狭く高層建築物の圧迫感を感じます。また、歩道の反対側には高架の高速道路があり、閉塞感もあります。しかしながら一部の大規模建築物では、低層部を開拓的につくりとしているものもあり、まちなみによりを与えています。

3.視線が集まる交差点



エリア内には、神田川に並行、直交する道路と、外濠に並行した道路が交わりアイストップをつくりだしている場所があります。こうした場所では、建築物の意匠や緑化などによる配慮が望られます。



景観形成の目標

都心のオフィス街に相応しい快適で落ち着いたまちなみへ

地域の顔となる飯田橋駅前の整然としたオフィス街のまちなみを創出するとともに、開放感やみどりの潤いがある快適な歩行者空間を創出する。

景観形成の方針

1.飯田橋駅前をオフィス街に相応しい落ち着いた景観にする

景観形成の考え方

交通の要所である飯田橋駅東口およびデッキの上からの眺めを、オフィス街に相応しい落ち着いた景観とする。

具体的な方策

- 駅前の角地に位置する建築物は、まちなみのシンボルとなることを考慮した意匠とする
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一緒に計画し、周囲からの見え方に配慮する



壁面位置や高さを周囲と合わせつつ、角地をいかしてアクセントをつける

2.目白通り沿いで快適な歩行者空間をつくる

景観形成の考え方

特に高架の高速道路と高層ビルに挟まれ「圧迫感」「閉塞感」を感じる目白通り沿道では、歩道に対してのゆとり、明るさを提供するよう配慮し、快適な歩行者空間をつくる。

具体的な方策

- 壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 低層部は透過性の高い素材を使用し、また、積極的に緑化を行う
- 周囲と調和した壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする



快適な歩行者空間をつくる

3.アイストップをいかした景観をつくる

景観形成の考え方

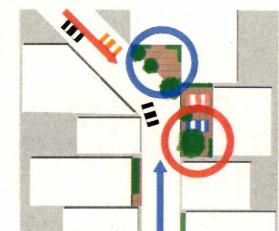
アイストップとなる道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分などをいかした景観をつくる。

具体的な方策

- 道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分では、視線の集まるこことを考慮した意匠とする
- 道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分では積極的に緑化を行う



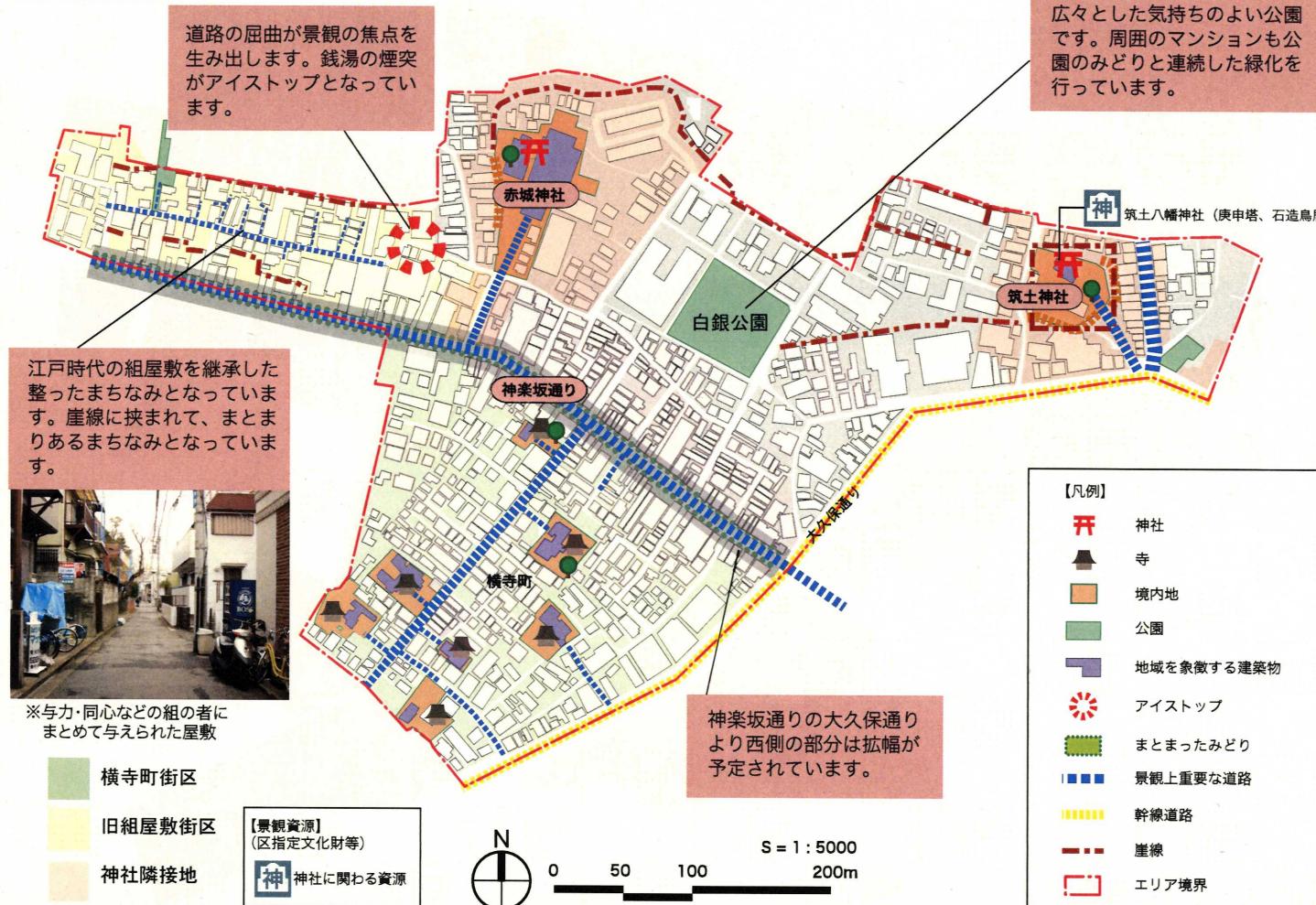
道路基盤の特徴をいかして、みどりを配置する



2-3 神楽坂（神社・寺町）エリア

赤城神社や筑土八幡神社、横寺町の寺町などを景観の核としたエリアです。両神社とも、台地の上に位置しており、豊かなみどりや参道などがまちなみには歴史のおもむきを与えています。また、神楽坂通り南側の横寺町には、現在も奥まった場所に寺院が立地し、落ち着いた雰囲気となっています。

景観特性



1. 景観の核となる2つの神社



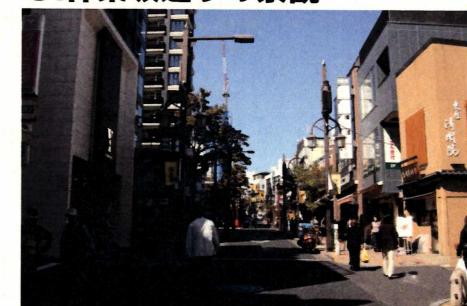
台地の上で豊かなみどりに包まれた2つの神社は、地域における歴史やみどりの核としてこのエリアの景観を特徴付けています。境内はもちろん、まちなみにも伸びている参道や広場空間を通じて、神社の雰囲気が周囲に波及しています。

2. 寺町のまちなみ



江戸時代に寺院が建ち並んでいた横寺町では、現在でも寺院が残っており、その参道はまちなみのアクセントとなっています。周辺の建築物については、寺町の落ち着いた雰囲気を創出するような工夫が望まれます。

3. 神楽坂通りの景観



神楽坂上の交差点より西側は、拡幅が予定されています。そのため、沿道には店舗として利用されていることが多い低層の建築物が建ち並び、賑わいのあるまちなみとなっています。また、緩やかなカーブと坂道が、神楽坂通りのまちなみには変化を与えています。



景観形成の目標

寺社の雰囲気と調和した落ち着いたまちなみへ

寺社を景観の核として周囲のまちなみを落ち着きあるものにしていくとともに、拡幅後も神楽坂通りの賑わいを継承する。

景観形成の方針

1. 神社の雰囲気と調和した落ち着いたまちなみをつくる

景観形成の考え方

景観資源である赤城神社、筑土八幡神社の落ち着いた雰囲気を保全し、周辺地でも神社に配慮した落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- 神社周辺では、神社の雰囲気と調和し落ち着いた形態意匠および色彩とする
- 特に、境内から見える場合は、境内からの眺めに配慮する
- 参道に面する場合は、神社への眺めを妨げないように配慮する



エリアのシンボルとして赤城神社の参道沿いのまちなみをつくる

2. 寺町の雰囲気をいかしたまちなみをつくる

景観形成の考え方

寺院自体の更新や、周辺地における建替え等で失われつつある寺町らしい景観を、保全・再生させる。

具体的な方策

- 外構や植栽は寺社の雰囲気と調和させる
- 寺院への見通しを妨げないようにする



寺院の落ち着きある雰囲気をいかした景観をつくる

3. 神楽坂通り沿道の賑わいを保全する

景観形成の考え方

神楽坂通り沿道では、道路拡幅後も従来の賑わい景観を継承する。

具体的な方策

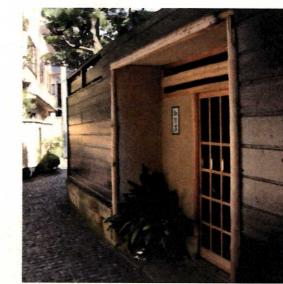
- 壁面の位置を揃え、周囲のまちなみとの調和を図る
- 低層部の賑わいを感じられるよう、1階の軒線を強調した意匠とする
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る



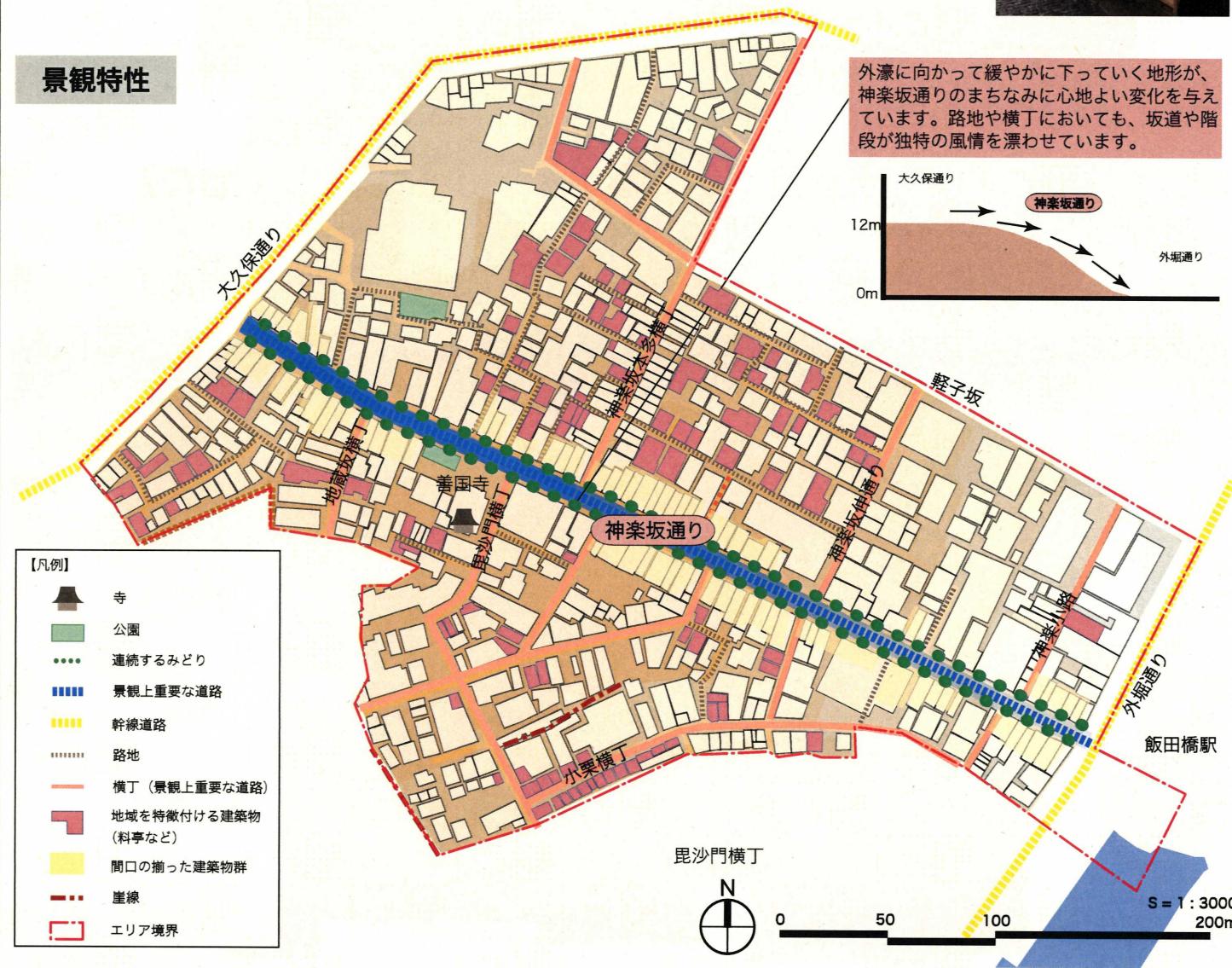
拡幅後も小規模な店舗の連なる賑わい景観を継承する

2-4 神楽坂（路地・横丁）エリア

坂道に間口の狭い店舗が軒を連ねる神楽坂通り沿いでは、賑わいあふれるまちなみが広がっています。通りから一歩入ると、石畳の路地や横丁が独特の風情を漂わせています。黒塀や門構え、石畳など和の意匠がこのエリアの景観を特徴づけています。



景観特性



1. 神楽坂通りの細やかなまちなみ



2. 路地の和の風情



3. 横丁の親しみあるまちなみ



神楽坂通りは、幅員が狭く高低差が約12mの坂道であり、その沿道には、小さな間口で中高層の建築物が建ち並んでいます。低層部には小規模の店舗が数多く入っています。坂道に沿って街路樹が並び、各店舗の袖看板が重なり合う景観は、その特徴を強く感じさせます。

神楽坂の路地は、明治時代以降の武家地の分割により徐々に形成されました。石畳の路地や洒落た店構えが、花街の風情を感じさせます。また、緩やかな斜面地のため坂道や階段などがあり、変化のある路地景観となっています。

神楽坂通りの北側には、神楽小路、仲通り、本多横丁といった個性的な横丁があります。飲食店等が建ち並び、親しみの持てる横丁景観となっています。一方、南側には地蔵坂横丁、毘沙門横丁、小栗横丁などがあり、傾斜が急なため、坂道や曲がり角が多くなっています。

景観形成の目標

高いが生み出す伝統的な和の風情を感じる粹なまちなみへ

花街の雰囲気をいまだに色濃く残す路地や横丁景観を軸として、神楽坂全体で和の風情を感じさせる粹なまちなみを生み出す。

景観形成の方針

1. 神楽坂通りのきめ細やかなまちなみを継承する

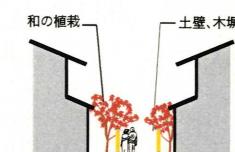
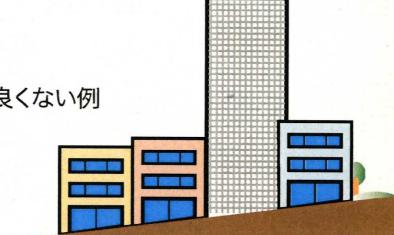
景観形成の考え方

伝統的な和の風情を感じる、細やかな賑わいのまちなみを将来にわたって継承していく。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲のまちなみとの調和を図る
- 低層部の賑わいを感じられるよう、1階の軒線を強調した意匠とする
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 1階の店舗は開口部を大きくとり、ショウウィンドウ等を設置する
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする
- 袖看板の規模や位置は、周囲の建築物に調和したものとする
- 神楽坂通りの入口（飯田橋駅側、大久保通り側）の角地では、神楽坂通りを代表するに相応しい形態意匠および色彩とする

良くない例



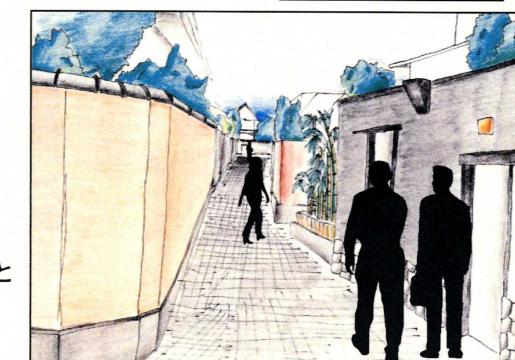
2. 伝統的な和の風情を感じる路地のまちなみを継承する

景観形成の考え方

花柳界の歴史を持つ路地では、それぞれの特性に応じた設えを工夫し、まちの持つ回遊性の魅力を向上させる。

具体的な方策

- 和の風情を感じさせる形態意匠および色彩とする
- 植栽は、和風植栽とする（竹や笹、桜、紅葉、椿など）
- 黒塀や石畳などが連なる場所では、その連続性に配慮した外構計画とする



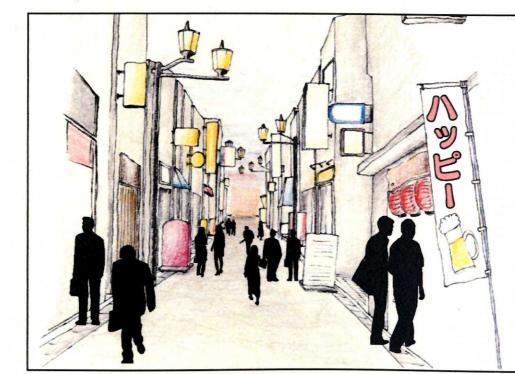
3. まとまりのある横丁景観をつくる

景観形成の考え方

店舗と住居が混在する横丁では、散在する店舗同士のつながりが感じられるような横丁景観をつくり、神楽坂通りや路地とつなげ、回遊性の魅力を向上させる。

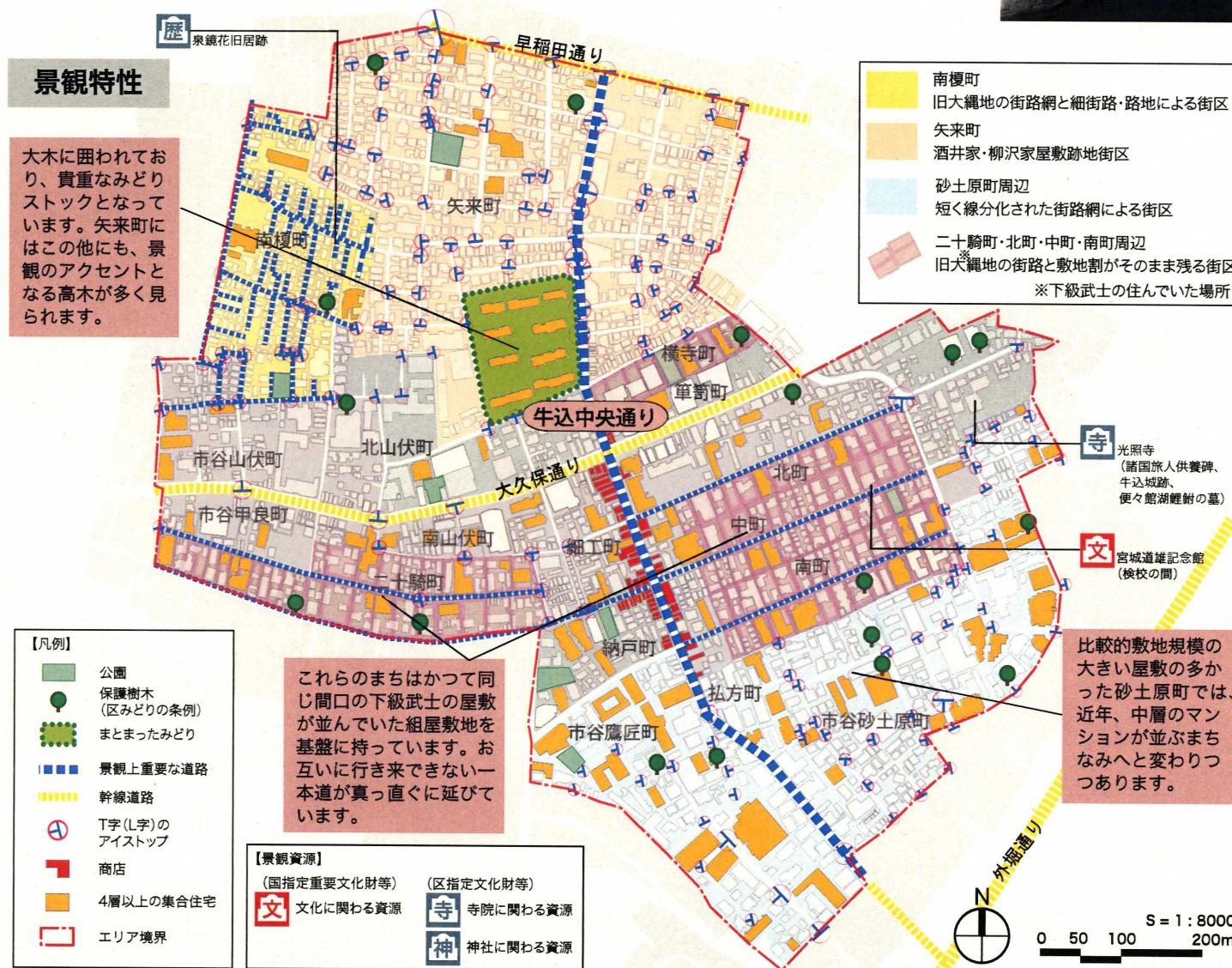
具体的な方策

- 看板類の規模や位置は、周囲と調和のとれたものとする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする
- 神楽坂通りからの見え方に配慮した形態意匠および色彩とする
- 路地からの見え方に配慮した形態意匠および色彩とする



2-5 牛込台地エリア

牛込台地上ではいくつかのタイプの異なる住宅地が集合し、みどり豊かで良好な住宅地を形成しています。江戸時代の武家地の敷地割りを現在も残し、同規模の敷地が連続している南樫町や二十騎町、北町、中町、南町などが特徴的なまちなみとなっています。



1.特徴の異なる武家地の集まり



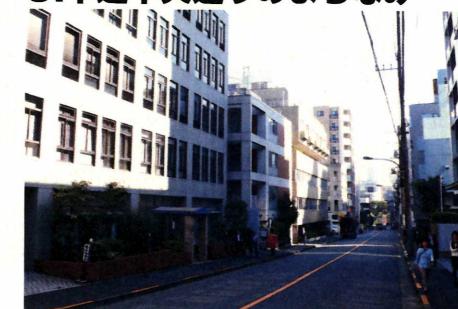
牛込台地上には、江戸時代に若狭小浜藩酒井家の下屋敷であった矢来町があります。また、下級武士に与えられた組屋敷の敷地割りを現在も継承している南樫町や北町、中町、南町などがあり、江戸時代から同じ武家地でも異なる特徴を持つまちなみが、現在も残っています。

2.あふれ出す庭のみどり



このエリアには、庭のある一戸建ての住宅が多くあります。道路にあふれ出す庭木が道路景観に潤いを与えています。また、近年では共同住宅も目立ってきましたが、敷地際の緑化など地域に溶け込む工夫がされています。

3.牛込中央通りのまちなみ



エリアの中央を通る牛込中央通りの納戸町や細工町周辺では、小規模な店舗の建ち並ぶまちなみがみられます。また、外堀通りとの交差点付近では、壁面線の崩ったまちなみが見られます。

景観形成の目標

戸建住宅と低中層建築物が調和したみどり豊かで落ち着いたまちなみへ

江戸時代から続く台地上に広がる閑静な住宅地のまちなみや、連続するみどりを保全していく。

景観形成の方針

1.同規模敷地の連なる整然としたまちなみを継承する

景観形成の考え方

南樫町や二十騎町、北町、中町および南町などは、江戸時代からの敷地割りが残っている貴重なまちなみとして積極的に保全していく。

具体的な方策

- 敷地統合の際は、外構や植栽等で既存の敷地割を基にして分節化を図る
- 敷地分割の際は、外構や植栽等で既存の敷地割を基にしたまとまりをつくる



もともとの間口の統一感を維持する

2.中層マンションは戸建住宅地に調和させる

景観形成の考え方

一戸建ての住宅中心の既存のまちなみ配慮し、増加しつつある中層マンションは圧迫感、異質感を軽減させ周囲に調和させる。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲の落ち着いた雰囲気に調和させる
- 敷地際は植栽を廻らせ、みどりの連続性に配慮した緑化を行う
- 駐車場、駐輪場などは道路から見えないような配置とする



戸建住宅地に溶け込むみどりに包まれた中層マンション

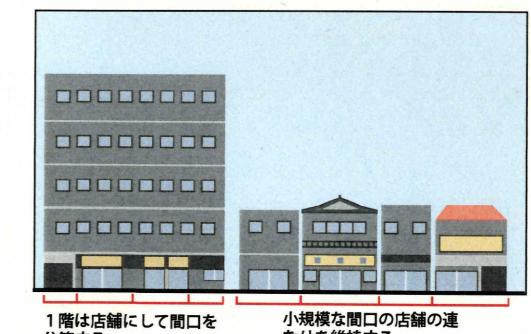
3.住宅地を貫く牛込中央通りを落ち着きと賑わいの感じられる通りとする

景観形成の考え方

細やかな商店の連なりや、スカイラインがそろったオフィスビルの連なりをいかし、牛込中央通りを落ち着きと賑わいの感じられる通りとする。

具体的な方策

- 低層部は、賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- 中層・高層部は、壁面線やスカイラインを周辺とそろえる
- 現在の細やかな間口を継承し、低層部は分節化を図る



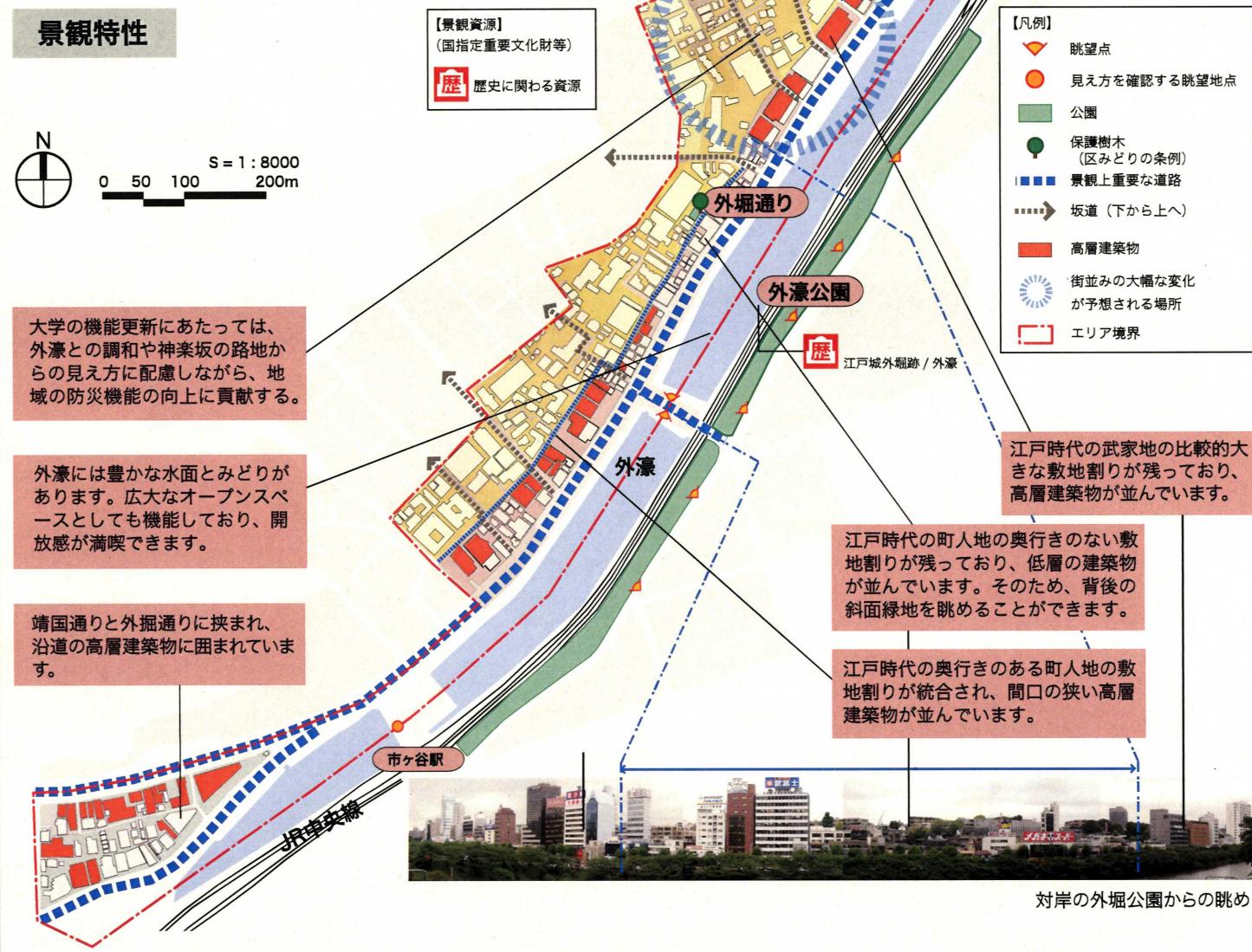
1階は店舗にして間口を分節する 小規模な間口の店舗の連なりを維持する

低層部は小規模な店舗の連なりを継承する

2-6 外濠斜面地エリア

外濠の深いみどり、斜面地に広がる住宅地のみどりが一体となって、みどりで包まれたまちなみを生み出しています。特に外濠公園（千代田区）からは、この豊かなみどりを一望することができます。逆に斜面地の坂道からは、開放感のある眺めを得ることができます。

景観特性



1.みどりで包まれた眺め



外濠公園からは外濠のみどりと斜面地に広がる住宅地のみどりが一体となった景観を一望することができます。しかし、外堀通り沿いの高層建築物が、斜面地を覆い隠している箇所もあります。

2.外堀通りと並走する道路



外堀通りと並走する幅員の狭い道路は通勤通学路となっており、多くの人が歩いています。しかし、裏側を見せている場合も多く、寂しい通りとなっています。沿道の建築物は、快適な歩行者空間を創出する工夫が望されます。

3.急勾配の斜面



外堀通りから西側へ向かう坂道は急勾配のため、曲がり角が多く、庭先のみどりがアイストップとなっています。また擁壁も、自然石が積まれたものがかなり残っており、歴史を感じさせます。

景観形成の目標

外濠と外堀通り、斜面緑地をいかした水とみどりに包まれたまちなみへ

都心の貴重な水辺空間であり、豊かなみどりで囲われた外濠を中心に、斜面地の特性をいかしたみどりに包まれたまちなみをつくる。

景観形成の方針

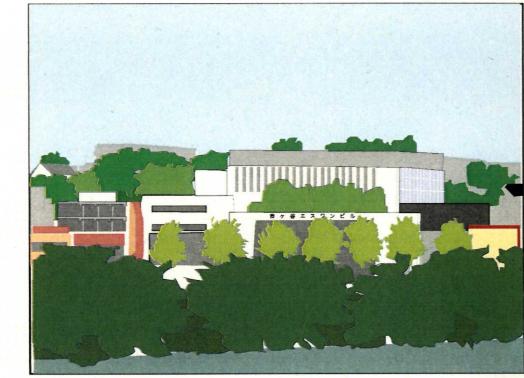
1.外濠対岸から眺める水とみどりに包まれたまちなみをつくる

景観形成の考え方

外濠対岸の外濠公園やJR中央線の車窓から眺める水とみどりを中心とした景観を、新宿区を代表する美しい都市景観として守り育てていく。

具体的な方策

- 色彩は、水とみどりに調和したものとし、特に彩度の高いものは避ける
- 外壁の素材は、自然素材のものとする
- 外濠や外堀通りに面する場合は、壁面の分節化を図り長大な壁とならないよう配慮する
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一緒に計画し、周囲からの見え方に配慮する
- 外堀公園からの眺めを保全するため、高さのある樹木やまとまとみどりを積極的に保全・創出する



屋外広告物等をすっきりとさせ、みどりと調和した色彩とする

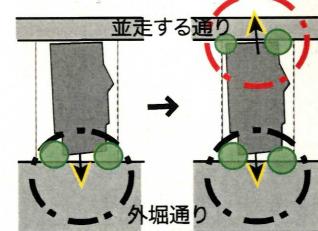
2.外堀通り沿道では並走する通りに対しても配慮する

景観形成の考え方

外堀通りだけでなく、並走する通りに対しても裏側とならないよう工夫する。

具体的な方策

- 並走する通りに対しては
- 入り口や開口部を設ける
 - 設備機器置き場などを設ける場合は、植栽や外構などで工夫し修景を行う
 - 道路沿いに照明等を設置する



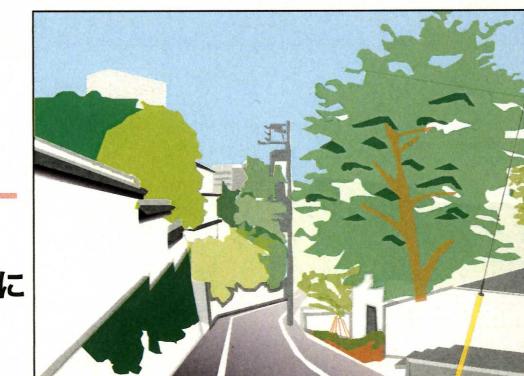
3.斜面住宅地のみどりを保全、創出する

景観形成の考え方

斜面地の特性をいかし、現在の良好な住宅地の景観をさらに向上させる。

具体的な方策

- 視線が集中しやすい坂の折れ曲がり部分では、積極的に緑化を行う
- 垣・さくなどは生垣や閉鎖的でないものとする
- 擁壁の上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する



みどりが折り重なるまちなみをつくる

2-7 市谷本村台地エリア

江戸時代には、尾張徳川家の上屋敷があった場所です。現在は、防衛省を中心に、大規模な公共的施設や工場等によるスケールの大きな景観が特徴となっています。台地の際で崖となっている部分は緑化されていることも多く、硬い印象を和らげています。市ヶ谷駅や市谷亀岡八幡宮などの人の集まる場所からの落ち着いた眺めの創出が望されます。

景観特性

しっかりした直行の道路基盤を持つ、整ったまちなみが広がっています。西側は敷地分割が進み、小規模な建築物が建ち並んでいます。

工場の機能更新にあたっては、森のようにみどり豊かな都市型産業地を創出する。



1.大規模施設群



防衛省やその北側の官庁群など、大規模な施設が並んでいますが、ゆとりあるまちなみとなっています。また、長延寺谷一帯の工場群は緑化などで快適な歩行者空間を創出し、まちなみ溶け込んでいます。

2.崖地の表情



台地の周縁部は崖地となっています。防衛省の敷地は、長大な崖地となっている靖国通り沿いで壁面緑化を行っており、心地よいみどりの壁が続いている。また、長延寺谷の崖地も起伏の大きい地形を強く感じさせる景観となっています。

3.市谷亀岡八幡宮



かつて市ヶ谷橋（JR市ヶ谷駅付近）からは市谷亀岡八幡宮の豊かなみどりを望むことができましたが、現在では外堀通り沿いの高層建築物に視線を妨げられています。また、市谷亀岡八幡宮からはこうした高層建築物群の裏側が見えてしまっており、眺めに対する配慮が望られます。

景観形成の目標

歩く人が楽しめるまちに溶け込む大規模施設群のまちなみへ

大規模な公共施設や工場によるスケールの大きな景観を、周辺の住宅地と調和させていく。

景観形成の方針

1.大規模施設群を周辺の住宅地に調和させる

景観形成の考え方

大規模な公共施設や工場等によるスケールの大きなまちなみを、歩行者や周辺居住者にとっても快適なものとする。

具体的な方策

- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 道路沿いには十分な広さの空地を設け、樹木や草花などにより、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる
- 屋上緑化や壁面緑化を積極的に行う



ゆとりと潤いを感じる快適な景観をつくる

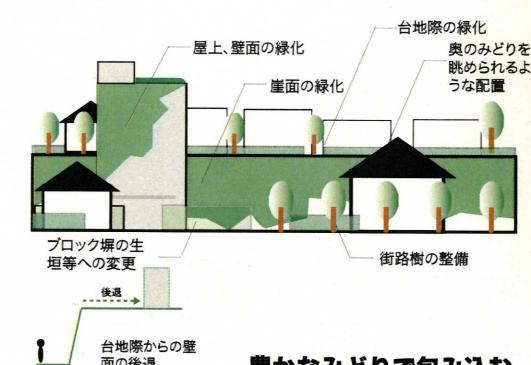
2.変化に富んだ地形をいかしたみどり豊かな景観をつくる

景観形成の考え方

斜面地では積極的に緑化を行い、大規模施設群や中低層の住宅が混在するまちなみをみどり豊かなものにする。

具体的な方策

- 崖下からの眺めを考慮し、積極的に緑化を行う
(例えば、生垣の推進、壁面緑化や屋上緑化など)



豊かなみどりで包み込む

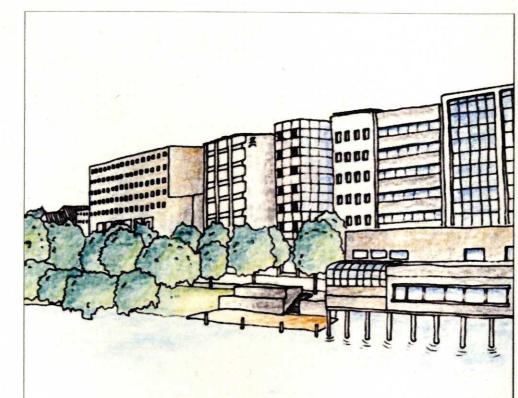
3.市ヶ谷駅と市谷八幡神社からの落ち着いた眺めをつくる

景観形成の考え方

市ヶ谷駅付近や市谷八幡神社からの雑然とした眺めを整えることで、地域の核となる景観を創出する。

具体的な方策

- 外堀通り沿いでは、市ヶ谷駅前からの眺めに配慮し、外濠と調和した落ち着いた形態意匠および色彩とする
- 市ヶ谷駅や市谷八幡神社から見える場所では、屋上広告物は建築物と一緒に計画し、周囲からの見え方に配慮する



スカイラインが揃い整然としたまちなみ